

山岳ぐんま

二〇一七年山の日イベントin谷川岳

群馬県山岳連盟 吉田直人

山の恩恵に感謝し自然に親しむ日として、昨年から施行された祝日「山の日」。

みなかみのシンボル「谷川岳」で過ごしましょうと銘打って、谷川岳エコ・ツーリズム推進協議会ならびに群馬県山岳団体連絡協議会により、次の五つのツアーが開催された。

- ①谷川岳初心者向天神尾根ツアー
- ②三大急登西黒尾根ツアー
- ③谷川岳ウォッチング自然観察会

- スイーツ&カフェ付ツアー
- ④国境稜線を越えて清水峠丸ツアー
- ⑤大岩壁一ノ倉沢を目指すライトトレッキング

心配された天候も、夏の青空は無かったものの、一日をとおし暑くもなく、



登りやすかったとの声に参加者から聞かれた。

各ツアー事故なく無事に終了したが、西黒尾根ツアーは、清水越えの弾丸ツアーが資料館前に戻っても、天神尾根を下山中とのことで、下山が予定より遅れ、待機している本部関係者の心配を募らせた。理由は、参加者の中に体力不足の人がいて、全体が遅くなってしまったとのことであった。資料館前に戻って来たときは拍手で迎

えられたが、長時間の行動でガイド以外は様に疲れきっていたようであった。次回募集する際、例えば西黒尾根ツアーなら、一時間に標高差で三〇〇メートル登れる方等の、参加資格を要項に明記したほうが良さそうであると感じた。

登録されたことも、今回の山の日イベントに花を添える。みなかみ町長も満面の笑みで、人と自然が支え合いずっと続いていく地域にしたいと力を込める。

我々登山者側としても山の恩恵に感謝する「山の日」を大切に益々盛んになるよう継続して活動して行く必要があると感じた。

山の日 天神尾根ツアー報告

群馬県山岳連盟 角田 二三男

〔ツアー名〕

谷川岳山頂への第一歩

天神尾根登山ツアー

〔ルート〕

谷川岳山岳資料館→ロープウェイ→天神尾根→肩ノ小屋→トマノ耳（往復）

当日のイベントは、登山、トレッキング、自然観察会など、五コースが用意されたが、どれも参加費は谷川

岳の標高にちなみ一九七円（このツアーでは、さらに往復のロープウェイ代）である。

ガイドは午前六時、山岳資料館に集合。担当は山岳団体連絡協議会で、岳連から高橋守男、対比地昇、星野俊充、角田二三男、群大オリエンテーリング部から小野沢清楓、児玉涼太、労山から樫沢初男、島田恭二、日本山岳会群馬支部から田中規王、黛利信の一〇名が参加した。

一般参加者は七時、同じく山岳資料館に集合。募集定員は六〇名（小学三年生以上）のところ申込人数は二三名、欠席者もあり参加者は二〇名程度となり、町の担当

*ふるさとの山に登ろう

の方が事前に班分けをしてくれて、各班に二、三名のガイドがついた。

朝の天気は曇りで、とくに午後には雨が予想されたが、雨天決行ということで出発した。途中、おまな休憩場所本部へ状況を報告しながら行動した。道中はおもに曇りで、一時薄日が差すなどして、小雨もばらつくこともあったが大して降られずに済んでよかった。季節的に花の種類は少なかった

が、シラネアオイなど咲き残りが少し見られた。

募集ではこのコースのグレードは初級ということであったが、一部の参加者にはきつく、とくに下山に時間を要した。予定した解散時刻は午後三時のところ、最終の班は帰着が四時半となったが、全員怪我もなく無事に終了することができた。

沢の各出合いを経由して資料館に戻る。二班はその逆で実施されました。

新道沿いは、群馬県立女子大学名誉教授の斉藤晋先生（日本山岳会）が植物等の生態系の話をされ、旧道沿いは、北原が谷川岳の成因や構成する岩石の話を解説しながらの自然観察会となりました。

新道入口には、絶滅危惧Ⅱ類に指定される湯檜曾柳が観察され、湯檜曾川を上流に向かうとミズナラとブナを主とした落葉樹が美しい森を形成し、特にブナは二百年を超える大木も多く、



新道・旧道共にすばらしい自然を構成しています。谷川岳付近でのブナは、標高七百五十メートル以上に植生し、それ以下はイヌブナとミズナラが多く育っています。このような落葉広葉樹の葉量は一ヘクタール当り三トンと言われ、秋になると落葉樹の葉っぱは、葉に残った栄養素を母体の樹木に返し、葉緑素が分解することで紅や黄色に変色し、美しい紅葉・黄葉を私たちに見せてくれます。そして落葉することで腐葉土と化し、

土壌を肥やしていくわけです。実は、常緑樹も落葉し、やはり一ヘクタール当り三トン位だそうです。マツ類は二年ごとに二分の一が、ヒノキ類は四年ごとに四分の一が落葉しているそうです。

谷川岳の地質は大きく分類すると二種類で構成されます。それは二億年以上前に形成された岩石と二百七十万年前に形成された二種類です。

トで運ばれて現在の場合に堆積岩として形成され、その後にマグマ溜りから火成岩が噴出し、堆積岩を押し上げ谷川連山が出来上がりました。したがって、谷川岳の大部分が二億七千万年前に噴出してきた白色の花崗岩類で構成され、頂上や稜線部に古い堆積岩が接触変成作用を受けた変成岩（結晶片岩）や超塩基性の古い火成岩である蛇紋岩が存在する訳です。幽の沢や一ノ倉沢出合いにある白い岩石が新しい花崗岩類で黒や緑、あるいはピンク色が脈状に入っているのが古い変成岩類や蛇紋岩です。

谷川岳は地形学的にも面白い山で、過去に氷河が存在したことも立証され、西黒尾根の氷河痕や一の倉沢にはモレーンも確認されています。

谷川岳は、八百人以上の遭難者の血を吸った「魔の山」と不名誉な命名もされていますが、「近くて良き山」と言った有名な登山家もおります。まさしく自然豊かな群馬県を代表する山と言えるでしょう。また、「ぐんま県境稜線トレイル」のコースにもなり、今後も多くの登山者達に利用されることを期待しております。

山の日 谷川ウォッチング 自然観察会報告

日本山岳会群馬支部長 北原 秀介

二〇一七年八月十一日、二回目の山の日を迎え、谷川岳エコーリズム推進協議会および群馬県山岳団体連絡協議会の主催で五つのイベントが実施されました。その中から担当いたしました「谷川ウォッチング自然観察会 スイーツ&カフェ付ツアー」の状況をご報告いたします。

当イベントの目的はふたつあり、一つは植性や地質に関する自然観察。二つ目は、折り返し点となる紅芝寮で提供される水上町産ス

イーツとコーヒーを楽しむことです。後者の目的を期待してか、参加者は圧倒的に女性が多く、天候に不安があったことから四名のキャンセル後、女性二十二名、男性四名の参加となり、嬉しいことに昨年のリピーターもいらっしました。

コースは二班に分かれ、一班は谷川岳山岳資料館前から湯檜曾川沿いの新道を紅芝寮まで歩き、標高差八十メートルを登って旧道に至り、幽の沢・一ノ倉沢・マチガ

寒冷積雪地基礎訓練 高体連登山専門部講習会

群馬県高体連登山専門部

委員長 八 木 茂 之

平成二十九年三月二十七日に栃木県那須・茶臼岳で発生した雪崩事故により亡くなられた栃木県高体連登山専門部の生徒・顧問の方々のご冥福をお祈りするとともに、残されたご家族の方々に衷心よりお悔やみを申し上げます。

この事故と同じ時期に、本県では生徒対象の講習会を嬭恋村にて実施しました。四十年以上にわたり尾瀬富士見峠周辺で実施されて



斜面での雪洞掘り



搬送訓練

前日からの雪が続き、季節外れの積雪の中で登山講習がスタートした。コースの内訳は、野地平經由で浦倉山を目指す班が三班。ゲレンデ南側の尾根で稜線を目指す班が三班。宇田沢を渡り、一九〇m付近を目指す班が一班。天候は朝方まで南岸低気圧で重い雪が

降った後、徐々に冬型に変わり、濡れた体が強風で冷やされる厳しい条件になったが、どの班もほぼ予定通りの行程をこなし、15時までに帰館した。気温はお昼にゴンドラ終点駅で確認し、マイナス8℃。強風と相まって、生徒はかなり寒く感じたことだろう。樹林帯の多い尾瀬ではなかなか経験しない風であり、うまく防寒着が着られない生徒もいたようだ。

三日目 荷物を客室にデポし、清掃完了後に講習開始。三日目になり、生徒の動きも良い。石樋の滝経由でゲレンデに出たあと、広い平坦なスペースでソリを作る。昨日の講習の成果で、各班共に搬送に耐えるソリが作れていた。インクノット、エイトノット等の基本的なロープワークは、山中での行動で様々な活用が考えられる。ぜひできるようにしておきたいもので

を開始。初めての土地で距離感がつかめず、集合時間に間に合わない学校も数校見られた。開会式後、主に野地平方面で初心者講習。南岸低気圧の通過で湿った雪が降る中、ツボ足やワカンでの歩行を確認する。ワカンが外れる生徒が多く、もう少し慣れが必要な状況であった。

炊事は屋外駐車場で行う。幸いなことに全ての参加校が横長の駐車場屋根下に入



野地平にて



浦倉山山頂

り、雪が降る中炊事を行った。食事後は全体講習。尾瀬でのリーダー講習会を写真で紹介し、その後服装や雪山の基本装備、危険性について講習した。

込み搬送する方法で、桐生高校の生徒が模範を見せた後、約40分間班別で熱心に取り組んだ。夜のレクリエーションは中止し、参加校紹介に変更した。

ある。

11時には宿舎に帰館し、閉会式。雪崩事故の犠牲者に黙祷を捧げ、四十四回目の講習を締めくくった。

* * *

講習会後、様々な報道がなされていきました。九時間にわたる訓練を強いたという論調の記事もありました。また、寒冷積雪地における基礎訓練計画書の審査会について、「全てを一回の会議で審査し、下見したのは講習会のみだった」という記事も見られました。確かに正式な事前調査は講習会のみかもしれませんが、各顧問は事前に準備山行や下見をしていることがほとんどです。電話取材のみで現場に確認も取らない上での記述も多かったようです。

平成二十九年度にまたがる事件でしたので新入部員減少も心配されました。しかし、五月時点で一年生男子一六名、女子四四名を新たに迎えることができました。総勢では男子三三〇名、女子一四五名、計四七五名、昨年比マイナス五名とほぼ横ばいでした。今後安全登山を心掛け、生涯にわたって山と親しむ仲間を増やしていきたいところです。

* 8月11日は「山の日」です

群馬県山岳団体連絡協議会の活動

群馬県山岳連盟理事長 佐藤 光 由

二〇一六年四月十四日に、群馬

県山岳連盟と群馬県勤労者山岳連盟、日本山岳会群馬支部の三団体が集まって群馬県山岳団体連絡協議会が発足した。各団体とも上部団体に全国組織を持つ団体である。

平成登山ブームといわれる昨今、登山者は増えても山岳会や同人などに入っている組織登山者は減少しつつある。減少に伴い当然高齢化が進んでいる。

安価で何の不安もないツアー登山の参加者は増え、これに飽きた多くの登山者はネットで情報を得てコースを選び出かけている。ヤマレコやヤマップの利用者が爆発的に増えているわけだ。さらに上を目指すには山岳ガイドがしっかりと案内してくれる。目標がはっきりしていれば山岳会なんて入る必要が無いのだ。「私エベレストに絶対に登る」と目標を立てれば、お金と三年あれば世界のトップに

登れてしまうご時世なのである。

先日NHKの遭難ニュースでアナウンサーは「しっかりとガイドに連れて行ってもらいましょう」と言っていた。少し前までは「しっかりとリーダー」だったのだが。

そうは言っても近代登山を方法からマナーまで牽引してきた三団体なのである。ネットで成功ばかりの報告や、営利目的の登山に惑わされる事無く、登山者のために群馬の登山環境を考えていかなくてはならない。群馬で山の事は、群馬県山岳団体連絡協議会に訊きたいと思っている。

発足すぐに群馬山のグレーディングと稜線トレイルが始まった。グレーディングは山岳連盟で一年以上県に働きかけたが、最終的には沼田山岳会の金井康夫会長の働きかけでようやく実現したと言っている。グレーディングは全国で

六番目だ。三団体から実行委員を出してグレーディングを行った。

評価の一致が無く、バラバラであったグレードは委員が集まって協議の上決定した。発表は紙面ではなくネットという県の意向であったが、二〇一六年の群馬山フェスタでパンフレットを配った。

稜線トレイル効果もあり二〇一七年もパンフレットを作った。遭難対策の一助になってほしいところだが効果はゆっくりだろう。登山者の指針になることを願っている。さらに山とルートを増やしたいところだが、これも今後県との交渉となる。

追隨して栃木県が今年グレーディングを行った。埼玉も考えているらしい。栃木のグレーディングを見ると行ってみようかなという気持ちになる。良い効果があるのは間違いないだろう。

「ぐんま県境稜線トレイル」は

今年の山の日には正式な名称として出発した。知事が力を入れている企画である。三坂峠から白砂山までの未開通区間の測量道はつながったという話だ。この調査を協議会が請け負った。山域を三つに分け岳連は谷川岳の稜線とエスケーブルート、付近のお勧めルートの調査を行った。労山は野反湖から渋峠まで。日本山岳会は渋峠から四阿山までを行った。来年の山の日には開通となる。未開通区間の山小屋は来年の完成は難しいようだ。これからの群馬県の山PRのため協力していきたいと思っている。

稜線トレイルが始まると登山者だけではなく、トレイルランナーが入ってくるのが予想される。九月末に協議会メンバーと県内のトレイルランナー有志の方と話し合いを設けた。トレイルランの賛否は別にして、群馬の山に入る人たちが気持ちよく山を楽しむための約束事ができれば良いと考えている。ランナー達も前向きだ。登山ブームといわれている現在。登山を気持ちよくできるように我々山岳団体がおうひと踏ん張りする時期ではないかと思っている。皆さんの理解と協力をお願いしたい。

田中壮佑さん

群馬県山岳連盟会長 八木原 罔 明



1972年4月
ダウラギリIV峰グルジャヒマール南東稜
C2 (5,200m) にて

鵬翔山岳会上越支部の田中壮佑さんが平成二十九年九月四日に亡くなった。胃ガンで、発見された時にはもう難しい時期だったという。一九四〇（昭和十五）年八月生まれの七十七歳だった。私共がガンをご本人から聞かされたのは五、六月前の春先である。

「覚悟の人だった」と元県高体連登山委員長の前善寺住職村上泰賢さんは言う。東善寺へ奥さんと赴いたのは二月頃だったというから発見直後のようなのである。「私は生きる覚悟をした」と言い、「宏岳

院医燈壯光居士」の戒名を付けてもらい、葬儀の相談までしたという。

亡くなる数日前の九月一日には「山の空気が吸いたい」と言って赤城山へ行き、車からは降りなかったが冷気を吸って帰って来たという。前橋生まれの山好きとしては赤城山が「近くて良い山、ふるさとの山」だったろうし赤城に別れを告げて来たのか。

私は今から五〇年も昔、五月の連休に八ヶ岳の全山縦走をして前橋駅へ着きバスを待っている時、特大のキスリングを背負って自転

車で帰る田中さんを見送ったのを覚えている。鵬翔山岳会の合宿帰りだったと思う。

田中さんとの一緒にの山は群馬岳連の一九七二年春のダウラギリIV峰だった。田中さんは七一年に都岳連隊でマナスル西壁を経験していて、我が隊唯一人の八〇〇〇m峰経験者だった。群馬初の鳴り物入りヒマラヤ登山も松井高重郎さんの高山病死などで登山は失敗に

終わった。登山隊の報告書には田中ドクターによる克明な検証がされていた。

一九八一年カンチェンジュンガで両足に凍傷を負い、帰国の翌日に長野の佐久病院へ行くと、なぜか田中さんの脳外科病棟に入れられる。わがまま凍傷患者に外泊許可を出し、田中さん宅に私を泊めて、奥さんの手料理で一杯飲ませ、また翌朝一緒に病院へ戻る。他の



1973年秋
第2次RCCエベレスト南壁隊キャラバンの時に

患者が羨む、優雅な外泊だった。

四年ほど前、日本山岳会の群馬支部を設立することになり、「支部長就任のお願い」に藤岡の老健施設へ行く。渋々引き受けてくれたが、条件は「八木原君が事務局長をやるなら」だった。私も渋々引き受けて支部は無事にスタートした。施設長室にはマナスル（七一年、七八年）やエベレスト（七三年）などの写真が掛けられていた。告別式当日式場へ入ると自ら選

び製作した中学時代（一九五四年）の兄弟四人での「初めての谷川岳登山」から始まり、前高山岳部、鵬翔山岳会、四度のヒマラヤ登山、家族登山がスライドショーとして流されている。最後には「皆さん大変お世話になりましたがとうございしました おかげ様で幸せな人生でした」とブルーポピーの写真と一緒に感謝の言葉まで添えられていた。

私などには末期ガンを宣告された人の心の内を察しようもないが、田中さんは家族にさえ痛さ苦しさを訴えることもなく逝ったという。医師としての矜持か。見事な覚悟の上の人生の締めくくりであった。田中さん、安らかにお休み下さい。

平成29年度自然観察会報告 赤城山北面の知られざる峰

「船ヶ鼻山」 ツツジ咲くプロムナードを歩く

自然保護委員会 小 池 寛 喜

今年是好天にも恵まれ、総勢八十五名の巨大パーティーの観察会はトラブル無く終えられた。

今回の観察会、往復型のコース設定など考慮した下見を行い委員会内で検討した結果、募集定員四十名を超えても行程管理に支障無いと判断、当日は長行列を無線

機で把握しながら落伍者を出すことなく進める事が出来た。これは山慣れた岳連係員体制ならではの成果だろう。

コース選定は、昨春に赤城山北面の沢登りをした際、尾根筋にはツツジが豊富に咲いていて大変感動したこと、その夏には昭和村か

*山岳保険は必携登山装備です

ら船ヶ鼻山への登山道が整備された新聞報道が目に残った事に始まった。岳連行事であれば、崩落個所の多いこの尾根筋も一般登山者への解放の可能性があると感じ今回(5/28)の実施に結びついた。冬の雪消えの傾向や昨年の開花事例から日程を絞り、早い段階から連盟内にも広報して進めたが、春先の積雪もありエスケープを含めた全行程の下見が連休前まで遅れて気が急いだ。次期コース選定は積雪前に済ませたいところだ。



野坂峠へ向けて



赤城山厚生団地内にて



シロヤシオの足元には崩壊地形がのぞく



尾根路に咲くトウゴクミツバツツジ

ところで肝心のツツジのプロムナードはどうだったか？ 歩いた方はご存知の通り、この記事で追体験する方には写真で伝わるか？ ツツジ咲き誇るトンネル：にはならなかった。

今年の赤城山、標高の高いエリアは花が少なかった。花は直前の降雨状態にも左右され、日程決めて公募するイ

ベントの宿命だが、開花時期に合わなかった訳ではなく花芽自体が少なかったのだ。これは赤城山に限らない傾向だったと思われるが読みが甘かったことは確かだ。開催直前にこの事実が気が付いた我々に出来た事は、当日の登山行動で五輪尾根から北に延びる船ヶ鼻山への郡界尾根がツツジ達の楽園である事と今後の機会に歩いていただけるよう注意点を交えての解説だった。

今回の観察会は、係員十四名＋一般参加七十一名。六十歳以上が80%で平均年齢六十四歳、集合距離は80%近くが40km圏内など、参加者構成を分析し今後の観察会を検討する際の材料にしたいところだ。

実施前の岳連内の会議では、AEDの準備も考えたい意見があり、前橋保健所より借用して会場に備える事が出来た。ロープや無線機の利用など登山経験が豊富なだけではない岳連係員のスキルを活かして実施する「岳人ならではの自然観察会」を今後もぜひ楽しんでもらいたい。

最後になりますが、運営に関わる係員の方々の意識には大変頭が下がります、ありがとうございます。

日山協

夏山レスキュー講習会から

群馬岳連遭難対策委員長 町田 幸男

今年の夏山レスキュー講習会は九月八日(金)～十日(日)、富山国立登山研修所にて開催された。

受講者四名、スタッフ一六名の合計六〇名と今年も盛況であった。

八日(金)、13:00より開校式が開催され三日間の講習が開始した。クラスは縦走ハイキング、クライミングレスキューA、B、C、ワークレスキューの計五クラスが設定された。今年の特徴はクライミングで新たに基礎クラスAが設定されたことである。今までは基本篇と応用篇の二クラスであったが、レスキューに必要なロープの結索、フリクションノット、シングルロープでのラペリングなど基礎知識について学びたいとの声に対応したものである。例年になくクライミングの四クラスはすべて定員となった。逆にハイキングのクラスに空きが見られた。群馬からはクライミングBの講師に町田

マ(こ)を急ぎよ代用、ワークの主任に角田(前橋)、総括として町田の三名が参加した。

縦走ハイキングでは運動生理学をはじめ計画書の重要性などの遭難予防から、ロープワークやツエルトの使用法、ファーストエイドなど危急時の対応について学習した。このクラスについては現在



クラスB講師による墜落者救助デモ

日山協にてハイキングリーダーを要請すべく新たなカリキュラムについて検討中で来年四月からの運営を目指している。

今回新たに設定したクライミング基礎クラスでは、三名のベテラン講師が受け持った。初めにロッククライミング中に発生する事故についてどのようなケース

があるのか学習し、対応するための個々の技術について学習した。

特徴的だったのは、60kgのダミーを使ってリーダーの墜落を体験させた点である。墜落を体験したことのない受講者には実際の衝撃を体感することで実践的な講習となったようだ。

クライミングB、Cでは従来通り人口岩場を使つてのロープワークを学習した。クラスBでは主にリーダーの墜落を想



ストレッチャーを使った岩壁での引き上げ

定した一連の基本的動作を組み立てて学習した。クラスCはBに加えて引き上げシステムやコンパニオンレスキューによる二名分の吊り下げ救助についても学習した。

ワークレスキューについては長年町田が担当してきたが、今年は角田に主任をお願いした。今年の受講者は八名すべてが消防士であり、ある面やり易かったかもしれない。とは言え、ほとんどが登攀に関する知識はないためクライミングに特化した技術に関しては丁寧に指導する必要がある時間を要した。支点に関する基礎知識から、岩場における現場侵入の方法、吊り上げと吊り下げについて、特殊

な資器材の取り扱い方法など様々な項目について指導がなされた。最終日には、これら個々の技術を織り込んだシミュレーションを行うことによりレスキュー全体の流れを習得していただいた。

ワークに関しては今年をもってカリキュラムから除外となるため今回の講習が最後となった。消防関係者からは継続の強い要望もあるが、登山者を対象とする日山協で公務に当たる方々を指導することがはたして必要なのか疑問の声があった。そもそも、ワークに関する指導は群馬の救助技術をベースに行ってきたもので、日山協としての基準は全くない。更に、今後の講師養成を考えると人選の上からも厳しいのも事実である。

今年三月、那須では高校生の雪崩事故が発生し、三年前の御嶽噴火など山岳に関する事故が増加している中、搬送に関する訓練の重要性が見直されている。こうした中、消防関係者からワークレスキューに対する要望が強いという事もうなずける。

近年、岳連内の講習会では縦走での事故を設定したファーストエイド講習会や、バックカントリーも視野に入れた雪崩講習会が積極



レスキューハーネスを使った
岩壁での吊り上げ訓練

安全登山の啓蒙活動&救助訓練

前橋山岳会 毛 呂 憲 治

的に行われており、定着しつつあるのは喜ばしい限りである。半面、クライミング中の事故に関するレスキュー講習会はめっきり影を潜めている。それだけアルパイン志向の会員が少なくなったという事であろうか。一ノ倉の岸壁や、冬

の穂高、剣を指した若き日が懐かしく感じられる。

技術の継承といった上からもクライミングレスキューについて講習会や勉強会を定期的に開催していきたい。指導、遭対委員会での今後の課題と考える。

平成二十九年七月二日に行われ

配布を行いました。

ました谷川岳山開きに参加し、毎年恒例になりました安全登山の啓蒙活動として、ベースプラザにて『安全登山ハンドブック』の無料

前日の一日には救助隊の装備点検を実施しました。朝から土砂降りのため、レスキューワイヤーの整備はできませんでしたが、その



ワイヤーでの張り込み救助

た。無料配布の豚汁はやや甘口で、冷えた体をしっかりと温めてくれました。お代わりをいただきたい気持ちでぐつと堪え、ベースプラザに移動しパンフレット配布。天気が悪いためか、ベースプラザ六階はいつもより人が少ないように感じました。それでも始発に乘ろうと、登山者が列を作っていました。配布できたのは昨年の半分程度でした。

た。ロープウェイで登山に向かった人は少ない印象でしたが、旧道を散策に訪れた数は例年以上に感じました。きっと天気があまり良くなかったせいで、無理して登山するのではなく、ゆっくりと谷川岳でも眺めようといった、登山客が多かったのではないかと感じています。遭難しないために一番効果的なのは「山に登らない事」という人もいますが、それではつまりません。今回の皆さんのように、余裕とゆとりのある登山計画をすること、安全登山に努めていきたいと感じました。

他の装備確認と点検、装備小屋にスチールラックの設置等を行いました。ラックを設置したおかげで、荷物の出し入れがとてもスムーズになりました。

その晩は、明日の山開きのおかげか、どこもかしこも賑やかでした。こちらも恒例の懇親会。メニューはキムチ豆腐に次ぐ定番のスンドゥブチゲ。翌日のお尻事情が心配されるほど激辛の鍋でした。おいしい料理と次に行く山の話。太田山岳会からの参加もあり、大いに盛り上がりました。

山開きは、あいにくの天気でしたが、多くの方が参加していま

救助訓練はマムシ岩にて、隊長以下十六名で実施しました。今回は新隊員の参加もありましたので、最初は基本的なロープワークの確認、張り込みの方法の確認、ルート工作の手順の確認を行い、その後、ロープレスキューのシミュレーション、ワイヤーによるレスキューのシミュレーションを行いました。



安全登山のパンフレットを配布する伊藤隊長

平成29年度 登山教室実施報告

登山指導委員会 対比地 昇

昨年度に引き続いてたくさんの方に参加していただき、今年度は定員を超え、何人かの人には参加を断るということとなった。ここ数年、広報活動に力を入れているが、安全登山についての知識や技術を身につけたいという人が多くいることがうかがえる。また、アンケートを見ると、初心者だけでなく、5年以上の登山経験を持つ人も数多く参加している。特別な知識や技術がなく

日程・内容・人数

参加者43人（男19、女24） 講師18人

回数	実施日	内 容	参加	講師
1	9/7 (木)	開講式 座学①「読図 地形図について 山田」	42	12
2	9/14 (木)	座学②「シルバコンパスの使い方 岩井」 座学③「スマホの活用 星野」	41	14
3	9/16 (土)	登山実技「赤城山」 1班(黒檜、駒ヶ岳)、2班(薬師、陣笠)、3班(地蔵、長七郎)	37	9
4	9/30 (土)	登山実技「赤城山」 1班(薬師、陣笠)、2班(地蔵、長七郎)、3班(黒檜、駒ヶ岳)	30	9
5	10/5 (木)	座学④「山のトラブル対処法 対比地」 座学⑤「登山計画書 石橋」 閉講式	38	13
皆勤（修了証）			26	
特別講習	3/3 (土)	登山実技(スノーシュー) 「玉原湿原周辺」	申込 14	



集合写真（赤城ビジターセンター）

でもだれでも気軽に始められるスポーツであるが故に、遭難などの不安を抱えながら登山をしている人が多いものと思われる。アンケートの結果を見ると、「今後の登山に役立つ」「期待通りだった」という感想が多くあり、我々運営側にも張り合いと意欲を感じさせてくれるところでもある。

座学は例年行っている地形図、シルバコンパス、登山計画書に付け加えて、今年度は「スマホの活用」と「山のトラブル対処法」を加えた。地図とコンパスを基本にスマホなど便利な道具も活用することが安全

登山につながっていく。山でのいろいろなトラブルにどのような心構えで対処していくか。そしてその対処方法とは、学ぶべきことはたくさんある。

今年度の実技は赤城山で行った。雨に降られることもなく、どの班も予定通りの時間を使っているという講習を実施することができた。毎年、三つの班に分けて行っているが、多少班によって講習内容が違ってしまふことがある。二回の実技講習でコースと講師を変えることによって内容のバランスが取れるようにしている。地形図の見方とコンパスの使い方を基本とし、それぞれ講師の個性なども活かした講習をしてもらえればと考えている。



修了証授与式（生涯学習センター）

アンケートの結果 (回答 36人)

①参加者の男女数、年齢構成、この登山教室の参加経験。

男	16
女	20

～30	1
31～40	4
41～50	12
51～60	6
61～70	11
71～	2

初めて	33
あり	3

②登山を始めて何年ぐらいですか。また、1年に何回くらい登山に出かけますか。

0～2年	18
3～4年	5
5～6年	5
7～10年	3
11～15年	1
16～20年	1
21年～	2

0～5回	17
6～10回	5
11～15回	5
16～20回	2
21～30回	1
31回～	4

③小屋泊の経験は

あり	20
なし	15

④テント泊の経験は

あり	7
なし	28

⑤参加した理由は
何ですか？

仲間に誘われて	4
仲間を見つけるため	3
登山の知識を増やしたかったから	33
登山の技術を習得したかったから	28
情報交換のため	7
もっと理解を深めたかったから	19
その他	0

⑥参加費の
5千円は

高い（希望額円）	1
適額	30
安い	5

(1)座学

読図	23
山の天候と天気図	24
山での危険の回避	21
山での応急処置	20
服装・装備	17
歩行技術	18
行動計画	12
食糧計画	10
生活技術	4
その他	0

⑧ 登山教室のテーマとして興味のあるものは？(複数回答可)

(1)座学①「地形図」

理解できた	20
少し理解できた	14
あまり理解できなかった	0
今後の登山に役立つ	29
少し役立つ	6
あまり役立たない	0

(4)実技「赤城山2回目」

理解できた	19
少し理解できた	7
あまり理解できなかった	0
今後の登山に役立つ	26
少し役立つ	0
あまり役立たない	0

(2)座学②「シルバコンパス」

理解できた	14
少し理解できた	14
あまり理解できなかった	6
今後の登山に役立つ	26
少し役立つ	8
あまり役立たない	0

(5)座学④「山のトラブル対処」

理解できた	23
少し理解できた	11
あまり理解できなかった	1
今後の登山に役立つ	25
少し役立つ	6
あまり役立たない	0

座学③「スマホの活用」

理解できた	12
少し理解できた	16
あまり理解できなかった	4
今後の登山に役立つ	17
少し役立つ	11
あまり役立たない	1

座学⑤「登山計画書」

理解できた	20
少し理解できた	14
あまり理解できなかった	0
今後の登山に役立つ	25
少し役立つ	6
あまり役立たない	0

(3)実技「赤城山1回目」

理解できた	23
少し理解できた	8
あまり理解できなかった	1
今後の登山に役立つ	27
少し役立つ	4
あまり役立たない	0

⑦ 各回の講習はどうでしたか？



実技「ツェルトの使い方」(赤城山)

① 楽しかった	34
少し楽しかった	2
あまり楽しくなかった	0
② 今後の登山に役立つ	33
少し役立つ	2
あまり役立たない	0
③ 期待通りだった	33
少し期待はずれだった	3
期待はずれだった	0

⑨ 全体を通して、今回の登山教室に参加してみたいか？

(2)実技	
無雪期のテント泊山行	13
無雪期の小屋泊山行	11
縦走路でのロープワーク	13
岩登り	12
沢登り	8
雪山登山	10
その他	0

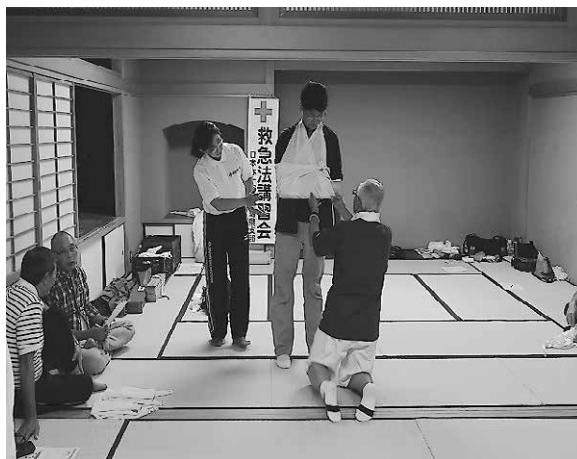
⑩ 講習について感想、意見など

- 座学②「シルバコンパスの使い方」の理解が1番の目的でしたが、理解力不足で難しく、現地講座を期待していました。実技①ではコンパスを出す機会もなく残念でしたが、地形図の読図や持ち物の紹介があり、収穫となりました。実技②ではスタート直後からコンパスと地形図を活用し、簡単なことを繰り返し練習できて、目的を達成できたように思います。
- 実技において、歩行技術を丁寧に教えていただき、大変参考になりました。ありがとうございました。
- 座学で習ったことを実技で実際にやってみると、理解できたので、実技があつて良かったと思います。黒檜山、駒ヶ岳コースは私の技量では少し無理があつたかもしれませんが、なんとか皆様について行くことができ、ほっとしました。先生方のおかげです。ありがとうございました。
- 全くの初心者での参加となりましたが、大変分かりやすく丁寧な指導をしていただき、ありがとうございました。今後、登山の勉強を重ねていきたいと思っています。
- 気象、ファーストエイドの座学も日数を増やして欲しい。
- 非常に丁寧に指導していただき、分かりやすかったです。勉強になったので、もっと回数が多くても良かったように感じました。
- とても親切に教えていただきました。ありがとうございました。パッキング、ツェルト講習、参考になりました。
- 昨年より少し理解できて、少し登山も可能になりました。理解が遅いので…、耳が悪いのでマイクの音が大きいかな？(座学)言葉が聞き取れないので。
- C班です。実技「赤城山①」では曇天とガスで視界が悪く、読図とコンパスを丁寧に教えていただきましたが、実際に景色を見ることができなかったのが残念でした。②の時は天候に恵まれたのですが、コンパスワークがほとんどなかったので、もう少し慣れたかったです。ザックの中身、詰め方、ほどけない靴紐の結び方、歩き方など、実技に大変参考になりました。そして、なにより2回とも楽しかったです。
- 登山仲間のリーダーにシルバコンパスの使い方を教わったことがありますが、直ぐに忘れてしまいました。今回、座学と実技でコンパスと読図を教えていただき、とても有意義でした。特に、実技にて講師の方々に懇切丁寧に教えていただき、教室に参加して良かったと思いました。(実践で読図が多少理解できました)。
- 苦手な読図が少し理解できました。
- 実技「赤城山2日目」、快晴だったのにコンパスワークがなかった。せっかく晴れたのに残念だった。
- 講習(座学)より実技の方がより理解できた。
- 回数を増やしてほしい。
- 赤城山での実技はよく分かった。良かった。ガイドに役に立ちそうで良かった。
- モンベルの地図読みイベントには参加したことがありますが、1日で座学と実技を行うプランでした。座学と実技が別日だと、復習もしやすく身につけやすかったです。
- 「山のトラブル対処法」はもう少し掘り下げていただけると参考になると思う。
- 登山計画書をしっかり書いて、自分の行動確認をしていきたいです。
- コンパスの使い方は、本で読んでもよく分からなかったのですが、今回の講習で理解でき、良かったです。
- 実技の日程を2日間あるのであれば、できれば異なる曜日にしていただけたらと思いました。
- 講習のおかげで、今後も登山を続けていこうと思いました。初心者で不安があつたのですが、とても勉強になりました。今後もこのような機会があれば、参加させていただきたいです。(3月は予定が合わず、残念です)。
- 経験豊富な講師の方々のお話を直接聞くことができ、刺激になり、今後の登山活動の意欲が更に高まりました。
- ザックの使い方(ザックによって違うと思いますが)いろいろなヒモ、ベルトなどあつてよく分かりません。ストックの使い方。
- コンパスの使い方が難しかったです。
- 大変分かりやすくなりました。
- 本当にありがとうございました。安全登山のためにこれからも気を付けていきます。
- 残念ながら、1番楽しみにしていた実技に参加できず、それだけが心残りです。

個人会員委員会勉強会

救急法 ～骨折の手当て～

個人会員委員会委員長 根 岸 仁



上腕骨折の手当て

勉強会内容は日本赤十字社群馬支部高野講師による、「三角巾の折り方・たたみ方」、「上腕骨折の手当て」、「下腿骨折の手当て」を行った。

「三角巾の使い方」は例年計画し、今年七月にも実施しているが、三角巾の使い方が手馴れている人もいるが、忘れてしまっている人もいます。

手際が悪い人へは、講

師やス

タッフがサポートを行い、手順の再確認を行う。

「上腕骨折の手

当て」では参加者の中から傷病者役

を選び、日本赤十字社講師が一通り

の実技説明や注意

点を説明、その後、四人一組のグルー

実施日 平成二十九年九月五日
会場 群馬県生涯学習センター
参加者 個人会員委員会 三〇名
個人会員委員会は山のファーストエイド講習として、今回、日本赤十字社群馬支部の協力により「救急法 ～骨折の手当て～」をテーマとした勉強会を行った。

救急法に関する勉強会は今年二回目。前回は七月に沼居副委員長を講師として「三角巾の使い方」を実施している。



下腿骨折の手当て

プを作って実技研修を実施する。傷病者を気遣い、三角巾の端の処理や、結び目の扱いなど細かいところにも気を配り、全グループが傷病者役を交代しながら実技を実施していく。

同様に「下腿骨折の手当て」を実施。添木を支持物として利用した骨折の手当てから、副子を毛布や雑誌に代えての手当も実施した。

日本赤十字社へ依頼した勉強会は今回で三回目、会員の中でも救急法救急員の認定を受けている会員も数名おり、会員の勉強意識は高いが全体とすると身に付いているものはまだ少ない。

救急法は継続的に実施することで、意識を高めるとともに、技能を身につけられる。

今年度は

本救急法勉強会の他、

群馬大学医学部齋藤先

生と山岳救助隊による

危急時の対応や、遭難

対策委員会の勉強会を

計画。個人

会

員

会

員

会

会員委員会では今後も継続しファーストエイド講習や山のリス

クマネジメントについて取り組んでいくこととする。

《こんなテクニク知ってますか?》

スキーストック用の石突キャップ

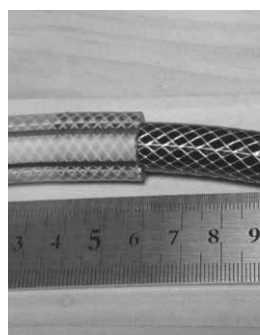
大間々山岳会 福田 純一

私はトレッキング用ポールを持つていないので、スキーストックの「古を使っています。スキー用では地表保護用の石突キャップはありませんので、ゴムホースを利用しています。

写真の様に差し込む長さより数ミリ長く切ります。(短くて失敗するより長い分には切り詰めれば済みます)しっかりと差し込み、石の上で体重をかけて突いてみて、石突から少し出ている位が良いです。地表が土ならホース部が支え、岩なら石突先端硬質金属が支えてくれます。

サイズ選びは、内径が差し込み部の最大径より1mm位小さくて、外径はなるべく大きい品がよいです。二本組合せ太くするのも良案です。水やアルコールなどで濡らすと差込む際の摩擦が減少し作業しやすくなります。

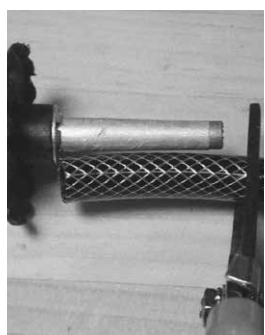
写真ではブレード入り(繊維入りで強化)の品です。好みの品を選べばよいのですが、判らなければ何種類か買って試すと良いでしょう。ホームセンターでは色々のホースを売っています。10cm単位で二十〜三十円の品です。



大小2本組合せ



ホースをさした石突き先端部



ホースを切る長さ

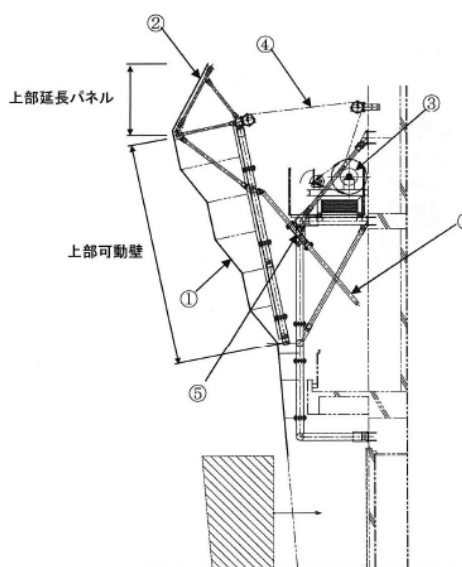
県総合スポーツセンター(ALSOKぐんまサブアリーナ) クライミングウォール利用について

競技委員会 長谷川 喜久男

八月五日に県総合スポーツセンター(ALSOKぐんまサブアリーナ)にクライミングウォールが完成し、一般利用が始まりました。天井ま

での高さは約二メートル、最大のルート長は約一四メートルの壁が左右同形状で二面です。上半分は可動壁で、さらに二メートルの延長壁が設置されています。

スポーツクライミングがオリンピック種目に採用されたことで、マスコミに登場する機会が増え一般の関心も高くなっているようです。しかし、これが実



構成部品の機能

- ①上部可動壁
クライミング競技用の上部可動壁で3~5° 毎(初期12°) 最大45° まで倒すことが出来ます。
- ②上部延長パネル
クライミング競技用の上部延長パネルで、必要に応じて開閉して使用します。
- ③手動ウインチ(上部可動壁用)
- ④ワイヤーロープ
- ⑤上部固定ピン
- ⑥スライドビーム
上部可動壁を停止位置で固定する部材です。
注) 競技及び地震時の荷重を負担します。

将来的には最悪の場合、停滞や縮減なども予想されます。他の競技に比較してクライミングは競技人口が圧倒的に少ないからです。若者を中心とした盛り上がりを持続できるか、年少者から高齢者に至るまでの広範囲の人たちのスポーツとして発展していくのかなど、課題が多いようです。

現在のオリンピックなどの盛り上がりや貴重な機会として生かしていくために、将来的には最悪の場合、停滞や縮減なども予想されます。他の競技に比較してクライミングは競技人口が圧倒的に少ないからです。若者を中心とした盛り上がりを持続できるか、年少者から高齢者に至るまでの広範囲の人たちのスポーツとして発展していくのかなど、課題が多いようです。



もう一つの観点としては、このクライミングウォールの利用率を上げる点があります。せっかく作った施設を有効に利用していないと判断されると山岳連盟としても寂しい思いになります。

施設の利用については次項を参照してください。とは言っても、残念ながら現状では他の競技との兼ね合いがあり、かなり使いにくい状態です。クライミングウォールを使用すると、同じフロアで行うバスケットボールやバレーボールの競技が出来なくなるので、この点の調整は要望しているところではあります。

【クライミングウォール利用の概要】

詳しくは「クライミングウォール利用上の注意事項」を参照してください。
A L S O K ぐんま総合スポーツセンター（ぐんまアリーナ受付）にあります。

1. 「クライミングウォール利用団体登録申請書」を提出する。
個人使用はできません。専用利用となります。（ぐんまアリーナ受付に提出）
2. 施設の利用予約（専用利用）は利用希望日の3ヶ月前から10日前までです。
下記の電話予約、施設内にある予約機による予約が可能です。

受付時間及び開館時間について

○開館時間 午前9時～午後9時

○受付時間 午前8時45分～午後8時

A L S O K ぐんま総合スポーツセンター

所在地 〒371-0047 前橋市関根町800番地

電話番号 027-234-1200

○予約状況などの確認は

<http://sports2.pref.gunma.jp/> （施設予約状況案内）

<http://www.gunma-sports.or.jp/> （群馬県スポーツ協会HP）

クライミングウォール利用料金（一部）

区分			午前	午後	夜間	一日
アマチュアスポーツに使用する場合	入場料を徴収しない場合	フロア全面使用	12,500円	12,500円	12,500円	37,500円
		2分の1使用	8,500円	8,500円	8,500円	25,500円
	入場料を徴収する場合		44,400円	44,400円	44,400円	133,200円

・利用料金の減免（部活動での利用や身体障害者手帳等をお持ちの方、65歳以上の方の利用など）もあります。

3. 施設を利用する際は、利用者のうち3分の1以上が経験者であることが必要です。

経験者とは以下のいずれかに該当する方とします。

- ①他県の類似施設の利用認定を受けている方
- ②以下のような技術を全て備えている方
 - ・グレード5.10程度のルートがリードで登れること。
 - ・トップロープの支点が安全に構築できること。
 - ・ビレイが適正にできること。

4. 利用当日は利用前にぐんまアリーナ受付に「クライミングウォール利用申込書」を提出してください。申込書中の「施設利用者数」及び「経験者数」は施設利用後に報告してください。

《こんなテクニック知ってますか？》

角度のタンジェント値不明で磁北線を引く方法

大間々山岳会

福田 純一

地図を正（整）置する為、PC（分度器）コンパスを活用する際に、地図に磁北線を引いておくことは登山する人ならご存知の事でしょう。磁北線を引くためには、西偏角度のタンジェント値が分からないと上手にひけません。コンパスの分度器と直定規を使う方法もありますが、地図の縦長さ程度を一気に引くには長さ×タンジェント値ですね。

例えばタンジェント7度は0.1227位ですが、真数表や関数計算機がないとわかりません。

私は簡易的に角度×0.0175を用います。7度なら $7 \times 0.0175 = 0.1225$ となります。気になる誤差は、例えば南北距離1万mに1つ（ $0.01227 - 0.1225$ ）×10000=2mですから登山の案内として実用上なら支障ないのです。2万5千分の1地形図上の2mは0.08mmでしかありません。

注意すべきは「分」が六〇進数である点です。7度30分は7.3ではなく7.5をかける。 $30 \div 60 = 0.5$ だから。8度10分は8.1667を掛けるのです。

この計算方法は高校数学で学ぶ弧度法（ラジアン）の応用です。数学的には本来は0.00何度というような微小角度において成り立つとされる話題なのですが、先に書いたように登山での実用は支障ない、と考えます。



株式会社エーアールアイ
東京都練馬区上石神井 3-18-1
TEL 03-5991-4638

弱電工事承ります。
電話工事、ネットワーク工事及びセットアップ(LAN 及び Wi-Fi 環境)、
TV アンテナ及びケーブル工事
パソコンで悩んでいませんか?
ソフトの使い方はわかりませんが、ハードの悩みは相談してください。
(難しい故障の場合は外注となります。)

ミヤマネットワーク

代表 佐藤 光 由
群馬県前橋市高花台 1-6-5
電話 027-269-1143 携帯 090-8842-2158



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026